

飼料自給率向上に向けた 平成18年度行動計画

平成18年度飼料自給率向上に向けた行動計画のポイント

粗飼料増産の取組を点から面へ拡大

(小斉平議長主催による現地検討会を6月29日～30日に開催)

食品残さ飼料化(エコフィード)の安全性の確保

18年度行動計画のポイント

【粗飼料増産】

国産稲わらの仲介・斡旋及び収集の早期かつ重点的な取組
稲発酵粗飼料の仲介・斡旋及び作付拡大に向けた早期かつ重点的な取組
シンポジウム、現地検討会の開催を通じた放牧の推進
地域の飼料増産への取組の核となる人材の育成

【食品残さの飼料化(エコフィード)の推進】

エコフィードの普及・関係者の理解醸成
品質・安全性の確保
全国的なエコフィード資源の発生実態把握

粗飼料増産の取組を点から面へ拡大

国産稲わらの飼料利用の拡大と
自給100%の達成

稲発酵粗飼料の作付拡大

水田放牧の取組拡大(肉用牛の増頭)

人材育成の拡大	H17	H18(目標)
放牧伝道師	36名	50名
稲発酵粗飼料コーディネーター	31名	50名
コントラクターアドバイザー	31名	50名

エコフィードの安全性の確保

全国・地域シンポジウム等の開催

エコフィード安全性ガイドラインの作成

全国的なエコフィード資源の発生実態調査の実施等